

古代史シリーズ5「日本の神社と神々」

第二部「伊勢信仰と大国主(出雲)信仰の神」 講座計画表

第 1回(XX/XX/'XX) 伊勢神宮の神と特性

第 2回(XX/XX/'XX) 伊勢神宮の由来と広がり

第 3回(XX/XX/'XX) 大社造りと社殿の神々

第 4回(XX/XX/'XX) 出雲の神々と大社創建

第 5回(XX/XX/'XX) 出雲大社の祭祀

第1回 伊勢神宮の構成と特徴

- ・伊勢神宮の全体概要
- ・祭祀構造
- ・建築様式と社殿配置

中心出典:「なぜ八幡神社が日本で一番多いのか」島田裕巳著(幻冬舎)、
「神社に秘められた日本史の謎」(洋泉社MOOK)、
「日本の神社 伊勢神宮(内宮)」(ディアゴスティーニ)、
「日本の神社 伊勢神宮(下宮)」(ディアゴスティーニ)、
「神宮125社巡拝案内」(伊勢神宮崇敬会)
「古事記」(竹田恒泰著、学研)、「日本書紀」(宇治谷 孟著、講談社)他

1. 伊勢神宮の全体概要

- ・伊勢神宮は神の名前ではなく天皇の祖先、天照大御神を祀る場所を表す。「お伊勢様」で知られる。
- ・皇室の祖先、「皇祖神」とされ、記紀において正当性を持って登場する神道の中核神である。

参照資料1-1

- ①祭神構成は、天照大御神を祀る「内宮(ないぐう)」、豊受大御神を祀る「外宮(げぐう)」からなる。
正式名称はそれぞれ「皇大神宮(こうたいじんぐう)」、「豊受大神宮」という。

参照資料1-2, 3

- ②伊勢神宮とは、祭神を祀る正宮(しょうぐう)の他に別宮、摂社、末社、所管社がある。別宮が14社、摂社が43社、末社が24社、その衣食住を司る所管社は正宮所管が34社、別宮が8社。
正宮を含めて、125社を伊勢神宮という。

*「別宮」とは、御正宮の『わけみや』という意味で、御正宮について尊いお宮のこと。皇大神宮(内宮)に10ヶ所、豊受大神宮(外宮)に4ヶ所の別宮があります。

*「摂社」は延喜式神名帳(えんぎしきじんみょうちょう)に、末社は延暦儀式帳(えんりゃくぎしきちょう)の縁起に出てくる神社です。

*「所管社」は正宮や別宮に直接関わり合いがあり、水や酒、米、塩、絹、麻など衣食住を司る神々が多く祭られています。

- ③伊勢以外で天照大御神を祀る神社は、神明社、神明宮、皇大神宮などと呼ばれる。

代表的な神明社は、芝大神宮、石川の金沢神明宮、長野の仁科神明宮、京都の日向(ひむかい)神明宮(日向大神宮)など。

2. 祭祀構造

参照資料1-5, 6

- ①内宮:天照大御神。神仏習合時には、天照大御神の本地仏は大日如来(金剛界大日如来)とされた。

ご神体は八咫鏡(やたのかがみ)。

相殿は、

参照資料1-4

* 天手力男神(アマノタヂカラオノカミ)、ご神体は「弓」。

天の岩戸を開けた手のあまりある力の神。守護神として座す。

* 楯幡千千姫命(タクハチヂヒメノミコト)、ご神体は「劍」。

「楯」は、衣を作る際の繊維となり、「幡」は繊維を織る機械のことを意味しており、すなわち、「織物の神様」

2. 祭祀構造(つづき)

読本参照、参考資料1-4

②外宮: 豊受大御神。本地仏は胎蔵界大日如来。ご神体「鏡」。

相殿は、天児屋根命(アメノコヤネノミコト)、ご神体は「笏(しゃく)」。太玉命(トダマノミコト)、ご神体は「宝玉(勾玉)」。邇邇芸命(ににぎのみこと)、ご神体は「鏡」。

③心御柱(しんのみはしら): 内宮・外宮の御正殿で天照大御神のご神体の床の真下に埋められている。

由来は、「天皇を象徴するもの、天皇を守護し、天皇に国を守護してもらう」という。

又、神籬説もあるが、「御正殿の位置を明確にするもの」が有力視される。

④斎宮: 内親王や女王といった皇室に連なる女性が選ばれ、潔斎を行いながら神事の奉仕をする。

天武天皇時、斎宮制度が正式に設けられるが、それまでも斎王は天照大神の御杖代(みつえしろ: 天皇の杖の代わりになる人)として奉斎した。

(注)嫡出(ちゃくしゅつ)の皇女および嫡男系嫡出の皇孫である女子

天武天皇の斎宮制度は息女の大来皇女(おおくめのひめみこ)から始まる。

3. 建築様式と社殿配置

参考資料1-7

①神明づくり

* 伊勢神宮の正殿は神明づくり注という伊勢神宮独特の建築様式を持つ。

屋根の千木(ちぎ)と鰹木(かつおぎ)、平入り、萱葺(かやぶき)、そして棟持柱を特徴とする。

(注)出雲の大社造りとは構造、土台、心柱、入り口共に全く異なる。

参考資料1-8、9

*「伊勢両宮曼荼羅」によれば、現在の神明づくりは1600年以降に出来上がった。

室町時代の伊勢参詣曼荼羅には棟持柱が見えない。妻入りでもある。

江戸時代の伊勢参宮名所図解には棟持柱が見える。

3. 建築様式と社殿配置(つづき)

参考資料1-10

②社殿配置

- * 内宮、外宮での大きな差は、正殿と宝殿の配置が逆になることと、千木が内宮が内削(うちそぎ)、外宮が外削で対称形の形式を持つ。
⇒同等の力を持つ神であったと想像できる。
- * 両宮とも板垣、外玉垣(そとたまがき)、内玉垣、瑞垣(みずがき)、御正殿の構造。
出雲大社では、荒垣、瑞垣、玉垣、御正殿となる。
玉垣の玉は魂(たましい)の玉、瑞垣の端はみずみずしい神を表すといわれる。